

南三陸町へ復興支援

世田谷・品川・大田の合同で

【世田谷・書記・田村彰宏】世田谷支部では世田谷区が職員を派遣している宮城県南三陸町への支援活動に、2015年から取り組んでいす。これまでも区の職員が橋



「しおかぜ球場」の階段改修の作業を世田谷区職員を含めて21人で行ないました

渡しとなり、様々な支援活動を行なってきました。今回は、7月28〜30日にかけて、平成の森運動場にある「しおかぜ球場」の階段改修の作業に、大田・品川・世田

谷の3支部合同で取り組みました。世田谷支部の大内常任が地元の南三陸町を使用した図面作成と工程・段取りを行ない、世田谷区職員2人、品川支部3人、大田支部3人、品川支部3人の21人で作業しました。2日半の予定のところで作業は順調に進み、約1日半で終了。活動を通して、3つの支部で一つのものを作り上げるという貴重な経験をすることができました。



166人の参加で交流も深まる

【北・書記・江藤学記】8月5日に城北ブロックPALの会の仲間166人がとしまえ

み、BBQ会場では仕事の情報交換から賃金や短い工期についてなど話し合い、交流が行なわれました。

また、じゃんけん大会やビンゴ大会では多くの景品を抱えられそうなお子も印象的でした。元請に対しては、長谷工の熱中症隠しや、ハウスメーカーの単価が安く

現場数をこなさないと利益確保が出来ず短い工期となる現状や、仮設の電気容量が低くたびたび電動工具が使えなく

り組みが紹介されました。PALの取り組みの今後の役割や、きびしい労働環境で働く仲間が組合とPALへ団結することが、明るい未来ある建設業を創る力になると確信できるレクリエーションとなりました。

今回は台風の接近で時間の短縮をせざるを得ませんでした。加藤会長が主催者あいさつ、続いて小書記次長と中村組織部長にあいさつをいただき、学習に移りました。

井寺 金分 小国 アットホームに 第3回土建ワールド

【小金井国分寺・造園・西澤栄一記】小金井国分寺支部では、第3回となる土建ワールドを8月5日に支部事務所で開催しました。

私は2度目の参加で、スーパードライのポジションで焼鳥、流しそうめん、かき氷と

道路に出ないように安全対策をしっかりと行ない、そのおかげで、無事に終えられました。私の子どもたちも参加し、組合員の皆さんに声をかけてもらい安心して遊ばせておけたこと、水風船やかき氷づくりなどを体験できました。また建物の中で他の子どもたちと木工やモザイクタイル、

地域の祭りより小規模な集いですが、アットホームな感じがいい取組でした。もっこの集いが浸透して参加者、特に子育て世代の参加者が増えると思えます。



「美味しいね。そうめん」

共済制度を学ぶ シニア活会に本・支部で85人

【本部分部】8月8日に東京土建シニア友の会第15回活動者会議がけんせつプラザ5階会議室において行なわれました。参加者は、35支部と本部で総勢85人でした。

【本部分部】8月19日、国会議員会館前で月例の総がかり行動が行なわれ、2700人の市民が参加しました。(東京土建からは66人)開会前に、パク・クネ政権を打倒した「キャンドル革命」の医療班で活躍した女医のイ・ボラさんが「真実は沈まない」を韓国語で歌い、参加者を励ました。

今月の主張

労働条件の改善は急務

東京商工リサーチが8月8日に発表した7月の企業倒産をみると、人手不足関連の倒産が前年同月比70・8%増の41件となっています。昨年10月の39件を上回り、単月では2013年1月の統計開始後、最多を更新しています。

倒産要因は、後継者難が32件と前年同月の16件から倍増しています。また人手確保の困難が影響した求人難は4件

（前年同月は7件）、賃金上昇など人件費高騰は4件（同ゼロ件）でした。東京商工リサーチは「親方の高齢化が進む建設業の後継者難は深刻だ」と指摘しています。組合の仲間の中から、自分の代で廃業するといった声が増えてきています。さらに、これからは求人難による倒産の増大も懸念されます。

ハローワークにおける建設・探掘の職業（パートを除く）の有効求人倍率は5・15倍で、37カ月連続で前年同月を上回っています。また建築・土木・測量技術者（パートを除く）の有効求人倍率は5・47倍、36カ月連続で前年同月を上回っており、技能も技術職も人手不足状況が長期化しています。

建設業の人手不足は倒産件数の増大だけでなく、老朽化した社会インフラの整備にも重大な影響を及ぼす恐れがあります。若年技術労働者が定着しない理由である長時間労働、低賃金、「3K」の解消に向けて、建設業界だけの問題とせず、社会全体の課題として捉え直すことが求められています。

死者の声に耳傾け

総がかり行動に2700人



コールする参加者

8月19日、国会議員会館前で月例の総がかり行動が行なわれ、2700人の市民が参加しました。(東京土建からは66人)開会前に、パク・クネ政権を打倒した「キャンドル革命」の医療班で活躍した女医のイ・ボラさんが「真実は沈まない」を韓国語で歌い、参加者を励ました。

主権者を代表して「戦争をさせない1000人委員会」の内田雅敏さんは「8月は死者たちの声に耳を傾ける月。テレビなどでも73年前の戦争の取り組みを話しました。」